

これからのUBEビエンナーレを
考えるワークショップ 2023 報告書 vol.3

WORKSHOP
REPORT

UBE宇部市
未来を彫刻するまち

UBE
BIENNALE
UBE International Sculpture Competition

第3回 2023.9.2 (土) 開催
テーマ：
ありたい姿を考える

全3回のワークショップの流れ

これまでの課題の
抽出と共有

第1回

課題・可能性について伺いました！

課題の
解決方法を探る

第2回

課題の解決方法への投票を行いました。

今回はココ！ 今後の在り方について議論する

第3回

これまでのまとめと若林先生の講義を行いました！

第3回を開催しました

第3回のワークショップ（以下WS）では第1回で出たUBEビエンナーレへの課題とそれを踏まえて作成した第2回アイデアへの投票結果をまとめ報告しました。その後若林朋子氏を講師としてお招きし、他の地域の取り組みとも比較しながらUBEビエンナーレの目指すべき在り方について講義頂きました。その後市民の方々に質問・ご意見を頂き、運営側の現状の意見についても対談形式でお話ししました。



これまでのWSで出た宇部ビエンナーレの課題やそれに対するアイデアへの投票結果のまとめを行いました。

若林朋子氏より講義を受け、市民の皆様より講義への質問を受けました。

若林朋子氏、日沼禎子氏、宇部市富田尚彦部長、榊原充大氏、藤原徹平氏がUBEビエンナーレのこれらについて対談を行いました。

これまでのWSのまとめ

これまでのWSの振り返り | WS01で出た意見

UBEビエンナーレの在り方「開催方法について」

開催期間の再考をすべきでは？展示期間が単は物足りない

優勝したら、優勝感がほしい。

大賞までの盛り上げ方が足りない

その彫刻がどのようにつくられたかというところが見えない

これまでのWSの振り返り | WS02での投票数とご意見

● 16票

皆さんからのコメント

・最終日に決定するパーセント投票もする

・最終日に決定するパーセント投票もする

これまでのWSの振り返り | WS01で出た意見

コソへの希望や条件について

参加者の希望を、受審期間とした方はエントリー不可にしては？審査に関与も広く

審査員の先生方に評価説明をもっとしてほしい。コメントも表示してほしい。作業について補助員は足りているか

審査をより厳しく

選定理由など、分かりやすく、馴染みやすく、興味をわくように

コンペティションの選定基準が審査人にはわかりにくい

これまでのWSの振り返り | WS02での投票数とご意見

● 12票

皆さんからのコメント

・登録時に特化してほしい

・部門分けする？

→そこまではない

開催日時：2023年9月2日（土）
開催場所：ときわ公園 湖水ホール
参加人数：18人
主催：宇部市
企画・協力（株）フジワラボ・（株）POUF
（株）日沼禎子

若林朋子氏による講義

講義タイトル

誰の / 何の
未来を彫刻するか



若林さんのお仕事
若林朋子氏は英国で文化政策・経営学を学び、現在はインディペンデントのプロジェクト・コーディネーターをされています。



テーマ1 宇部市のまちづくりと
彫刻展の参考となる事例

北海道・東川町の「写真の町」や北海道・剣淵町の「絵本の里」など、文化を行政の中核に置き町内の他領域のまちづくりにも応用する例についてお聞きしました。

宇部市のまちづくりの特徴

＝

市政の屋台骨として「文化」（彫刻）があること

＝

UBE宇部市
未来を彫刻するまち

まち全体がギャラリー

テーマ3 これまでのワークショップ出た意見へのコメント

ワークショップ内ですでに幅広い意見や市内の活動の紹介が出たことを踏まえ、「これ以上広げていくためには、多領域との掛け合わせが必要。宇部市の文化的コモンズをUBEビエンナーレでいかにつくるかが100年続くかにつながっていく」というご意見を頂きました。

拡大領域＝「文化的コモンズ」の形成

誰もが自由に参加できる地域共同体の
入会地のような、文化的営みの総体

多様な主体が相互に関わりあうことで、
地域固有の文化的コモンズが形成される。
その有無や層の厚さが、地域の文化的豊かさや、地域の活力に大きく影響。

アンケートで出た意見のご紹介

全3回のワークショップを通し、ご自身の中でUBEビエンナーレについて考えたことは何ですか？

- ・宇部には彫刻にまつわる歴史があり良い素材があるので上手にアピールすべき。そのための方策は？
- ・ビエンナーレの発展可能性をしっかりと感じ取れたと思います。そのため今回のWSを活かしていただきたいと思うばかりです。
- ・社会全体や教育ともしっかり繋がっていくことがUBEビエンナーレを含む、文化・アートにとって重要だと再認識しました。
- ・新しいことも必要だが、当たり前のことをまずしっかり改善すべき。
- ・宇部にある世界一をもっと宇部市民に知らせたい。
- ・色々な立場からの意見を聴くことは本当に大切だなと思いました。

今回のワークショップでは、プロジェクト・コーディネーターをされる若林氏に市民の活動から考えるUBEビエンナーレの在り方について講義いただきました。

若林朋子氏プロフィール

英国で文化政策を学んだのち1999～2013年（公社）企業メセナ協議会プログラム・オフィサー。企業が行う文化活動の推進と芸術支援の環境整備に従事。在職中、トヨタ・アートマネジメント講座事務局およびネットTAMの立上げ・企画運営を担当。13年よりフリー。「ともに最適解を考える」をモットーに、事業の企画、コーディネート、コンサルに取り組み。夜間は社会人大学院教員。社会デザインの領域で文化、アートの可能性を探る。

テーマ2
宇部市のまちづくりは
どう読み解けるか？

ヨーゼフ・ボイスの「社会彫刻」という概念を参考にUBEビエンナーレやまちづくりに関わる宇部市民も芸術家であり「社会彫刻家」であるというお話がありました。

“彫刻する”まち

＝

無限の可能性を秘めたまち

UBE宇部市
未来を彫刻するまち

「誰が」「何を」「彫刻していく」のかを考えることが重要
⇒“彫刻する”のは彫刻家だけなのか？ 彫刻する“未来”とは何か？

「社会は、人間の手でかたちを変える
ことができる有機的なもの」

＝

【社会彫刻】創造力によって人間一人ひとりが、有機的な社会の形成に
関与する行為

＝

「すべての人間は芸術家」

ボイスの「芸術」の概念

目に見えない本質を、
具体的な姿へと育て、
ものの見方、知覚の形式を
さらに新しく発展・展開させていくこと。

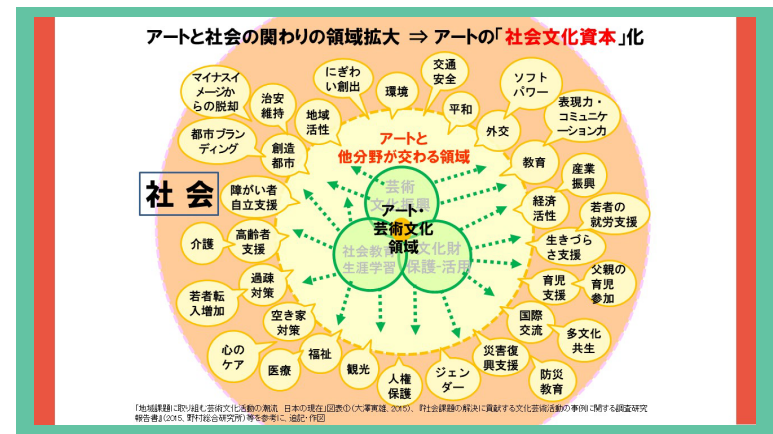
参考：artscapsアートワード

あらゆる人間は 自らの創造性によって
社会の幸福に寄与する。
誰でも 未来に向けて社会を彫刻しうるし、
しなければならない。
人間を抑圧し疎外する社会を変える＝
彫刻するのは、「芸術家」＝「自ら考え、
自ら決定し、自ら行動する人々」であり、
誰もがそうなる義務がある。

まちづくり＝社会彫刻
市民＝社会彫刻家

炭鉱時代からUBEビエンナーレを継続する現在まで
一貫して、掘り/彫り続けている宇部

社会彫刻家としての市民が
まちと自分の未来を、どのように彫刻していくのか。
さまざまな領域で、創造的に考えていくことができる。



※下記は回答の一部です。ご回答をありがとうございました。

全3回のワークショップを通し、ご自身の中でUBEビエンナーレについて考えたことは何ですか？

- ・参加者が多くなる工夫をしてほしい。
- ・もっと市民の意見を取り上げて欲しかった。
- ・資料の字が小さく見づかった。
- ・若林先生の文化的コモンズはすごく勉強になりました。
- ・アートを通じた市民活動を深く広く福祉までの考え方は良いと思える。
- ・経済的なこと、審査について、教育について具体的な意見や案が出ていたと思います。
- ・とてもよかったです。今回のワークショップの結果をぜひ全ての関係者に知らせて頂くをお願いします。